

伝言板

※10月10日 町内清掃（男子役員による）

※10月24日 秋の町内一斉清掃（連絡協議会）

※赤い羽根共同募金 第6町内会として15000円を寄付

■資源回収 11月20日(土)・12時 各ごみステーション 毎月第3土曜日

「割れ窓理論」を考える

片手にポリ袋(ゴミ袋)、片手に火ばしといういでたちで、10月24日(土)綺麗にし隊(たい)10名は、一斉にこまどり公園を出発した。作業は通常ぐるっと町内を一周すると、3000歩、30分というところだ。煙草の吸い殻、缶コーヒーの空き缶、ペットボトル、などなど。最近ではマスクも目立つようになってきた。

ふと思った。小さなタバコの吸い殻一つを拾っていると「割れ窓理論」のことを思い出した。

【割れ窓理論】 建物の窓が壊れているのを放置すると、それが「誰もこの地域に関心を払っていない」というサインとなり、犯罪を起こしやすい環境をつくりだす。

という考え方である。この考え方で、ニューヨーク市のジュリアーニ市長は治安を回復した。また日本では東京ディズニーランドではささいな傷をおろそかにせず、ペンキの塗り直しなどの修繕を惜しみなく夜間に頻繁に行うことで、従業員や来客のマナーを向上させることに成功している。

「小さな現象」を見過ごすことなく、素早く対応することの重要性を教えてくれる。また地域の防犯に

最も効果的なのは「住民の目」であるとよく言われることである。



いちばん若い岩込隊員



精鋭「綺麗にし隊」のみなさん
(撮影・平沢副会長)